

## 第IV章 活動事例

### 1 活動事例の見方

この章には、第III章の各年齢のカリキュラムに基づく活動事例を掲載しています。活動事例は、各年齢で4事例ずつ紹介しています。

2歳児 活動事例4 色水遊びをしよう（7月）

観点（興味・関心） 観点（意欲） ～おもしろそうだな～

この活動事例の視点は「意欲」です。【遊びの経過】【ねらい】【幼児の活動・環境の構成・保育者の援助】には、視点に沿った内容を焦点化して記入しています。

**【遊びの経過】**  
夏ならではの水遊びやボディペインティング、かたくりスライムなどの遊びを、開放感を味わいながら楽しんできた。そのなかで少しずつ色に興味をもち、生活や遊びのなかで色の名前を使うようになってきた。

**【ねらい】**  
・色に興味をもち、容器に入れたり移したりしながら色水遊びを楽しむ。

**【遊びの経過】**  
には、視点や本活動に関する子どもの様子を示しています。

○は「幼児の活動」、  
★は「環境の構成」、  
■は「保育者の援助」  
を表しています。

視点につながる子どもの言葉や思いを挙げています。

**【遊びの経過】**  
吹き出しの中の【 】の中の言葉は、  
・保育者にとっては、子どもの姿の「見取りの視点」  
・子どもにとっては、「育ちつつある心情・意欲・態度」  
をキーワードで示したものです。

**【評価】**  
は、ねらいに沿った具体的な子どもの姿を示しています。

**【遊びの経過】**  
あ、きれいだ。  
【期待】  
あ、赤だ。  
【発見】  
知っている色だ。  
【自信】  
入るかな。  
【チャレンジ】  
【集中】  
なくなっちゃった。  
黄色、ちょうだい。  
【意欲】  
【欲求】  
色が変わった。  
【驚き】  
【発見】

**★環境の構成**  
■色水遊びへの興味・関心が高まるように入ったペットボトルに絵の具を少し混ぜ、色水ができていく様子を見せる。  
■色への興味・関心がさらに広がるよう遊びのなかで色の名前を伝える。  
■子どもたちのつぶやきを受け止め、繰り返しながら子どもの発見に共感する。  
■遊びのイメージがもてるように、できた色水を容器に移す様子を見せる。

★いろいろな形や大きさの容器を準備する。  
★混色しても濁りにくい色を選んで準備する。

■安心して遊びに集中できるように、「こぼれもいいよ。」「大丈夫だよ。」などの言葉をかけ、繰り返し楽しんでいる姿を見守る。  
■遊びが広がるように、子どもたちの発見や共感するとともに、まわりの子どもたちへも遊びやごっこ遊びが見られた時には、発展するように、子どもの色に対するイメージを受け止め、「ぶどうジュースくたな」などの声をかける。  
■子どもたちが楽しんだり工夫したりできるように、色や容器の形、大きさ、量などいろいろな違いや変化に気付くような声をかける。

**【評価】**  
・好きな色や容器を選び、色水を入れたり移したりすることを楽しんでいる。

★この活動事例を参考に、幼稚園等や地域の特色を生かし実践していきましょう。自園ならではの「活動事例」を開発していきましょう。